研究成果報告書 科学研究費助成事業

今和 6 年 6 月 2 5 日現在

機関番号: 32630

研究種目: 基盤研究(C)(一般)

研究期間: 2020~2023

課題番号: 20K00635

研究課題名(和文)19世紀における「長崎ハルマ」ローマ字本のグローバルな展開

研究課題名(英文)Global development of "Nagasaki Haruma" Roman alphabet books in the 19th century

研究代表者

陳 力衛 (Chin, Rikiei)

成城大学・経済学部・教授

研究者番号:60269470

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文): J. F. van. O. フィッセルがオランダへの帰路の途中,中国との中継地点でもあるバタビヤでW. H. メドハーストに,蘭和辞書「長崎ハルマ」のローマ字本(帰国後,オランダ国王に献上)を書写させていることを明確にした。さらに,イギリス,オランダ,フランスで所蔵されるローマ字本が,必要に応じて表記方法などに改編が加えられていることを検証した。中国語訳を付し三ヵ国語の対訳辞書へと進化を果たしたものもあり,諸言語の対訳辞書として,さらには日本語学習辞書としての役割を担っていたことを解明した。あわせて,19世紀における日本への「近代知」の流入経路,また欧州での日本語の分析の状況を明らかにし

研究成果の学術的意義や社会的意義 欧州へ流布した蘭和辞書「長崎ハルマ」のローマ字本の足跡をたどることは,日本語がどのように欧州で受容され,さらには開していったのかということに深くつながっている。ローマ字本は当時の日本語を克明に書き留めているため、流布した先々で用途に応じて改編されている(現代日本語の形成の指標ともなる資料群である)。グローバルな視点からは,蘭日対訳を通した「日本知」がオランダだけでなく、メドハーストにも受け継がれ、英語の世界へも知れ渡るようになる。また、シーボルトによる中国語訳の追加の試みから分かるように、本研究は,日本語学はもとより諸言語,さらには文化交流史をはじめとした歴史分野にも資するものである。

研究成果の概要(英文): We have established that J. F. van Overmeer Fisscher had W. H. Medhurst transcribe the Romanized version of the Dutch-Japanese dictionary "Nagasaki Haruma" (which he later presented to the Dutch monarch after his return home) during his stopover in Batavia on his return journey to the Netherlands from China. Furthermore, the Romanized versions feld in Britishian, the Netherlands, and France underwent modifications in notation as needed. Some of these editions even evolved into trilingual dictionaries by incorporating Chinese translations, thus serving as bilingual dictionaries for various languages, as well as learner's dictionaries for the Japanese language. In addition, we clarified the routes through which "modern knowledge" reached Japan in the 19th century, as well as the state of Japanese language analysis in Europe during that period.

研究分野:日本語学

キーワード: 蘭学 ドゥーフ・ハルマ ローマ字本 蘭和辞書 ホフマン シーボルト フィッセル メドハースト

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等に ついては、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様 式 C-19、F-19-1(共通)

1.研究開始当初の背景

- (1) 申請者は、イギリス人宣教師 W. H. メドハーストの編纂した『英和和英語彙』(1830)の研究を進めている際、「編者は日本にかつて滞在したこともなく、日本人と語る機会にも恵まれなかった。しかし、日本からの数人の紳士の御好意により、何冊かの日本の書物―とりわけ日中両文字を併用した書物―を披見しえたので、編者は中国語の知識を用いて以下の語彙表を編纂することができた。」と記載のある序文(原文は英語、日本語に訳した)を読み直したことがきっかけである。それに続く序文には、「編者は日本人の手になる入手し得る最上の著作物に厳密に従った」とあり、日本で流布している確かな書物を底本に選んでいることが窺えたのである。そこで、その紳士はだれなのか、そして、どのような書物を参照したかという実態を解明する必要性を痛感したことで研究を企図した。
- (2) さらに、『英和和英語彙』におけるローマ字表記を調査すると、先行する蘭和辞書を視野に入れて考える必要があった。そこで、申請者は、日中の語彙交流、さらに西洋との関わりといった視点から調査・研究を進めることとした。その過程で、オランダのハーグにある「長崎ハルマ」(「ドゥーフ・ハルマ」)のローマ字本(「ハーグ本」)の蘭和辞書にたどりついた。当該資料のサンプル調査を行った結果、まさに従来の研究史を補う重要な資料だと認識し、さらに早急なる実調査の必要性があるものと判断し、本申請を行うこととした。

2. 研究の目的

- (1) このハーグ本は 3 冊からなる完全な蘭和辞書である。語彙の掲出は、「蘭語+日本語ローマ字表記の訳語+カタカナ表記+ひらがな表記」の 4 段構成である。先行する蘭和辞書を外国人向けの日本語学習辞書として改編した内容である。
- (2) 来日経験のないメドハーストが書写した「ハーグ本」は、『英和和英語彙』の4 段構成(「英語+日本語ローマ字表記+カタカナ表記+漢字表記」)の形態に加え、日本語のローマ字表記とカタカナ表記にも影響を与えている可能性がある。「ハーグ本」をメドハーストが『英和和英語彙』の編集の参考としたことが、蘭学から英学へ転換させた直接の原動力となったものと考えられる。さらに、オランダにおける日本語研究に直接寄与した日本語学習の一次資料として、再考を要するものと判断した。
- (3) 日本の研究史では従来「長崎ハルマ」のローマ字本を「未熟な,初歩的な」ものとみしていた。その考察は古賀十二郎の 1940 年代の研究に見られる。しかしながら,彼の写本の挙例はわずかなため様子が伝わることが無かった。そして,以後の研究者(鈴木博(1974,1975),杉本つとむ(1978),松田清(1984)はその写本を未見である。なお,写本は 2 冊あったが,19 世紀半ば出島の大火でオランダ商館の蘭和辞書が焼失したため,出島のオランダ人は本国に複製を要請し,上記の「ハーグ本」をライデン大学の J. J. ホフマンが書写の上 1856 年に日本に送付した(「東洋文庫本」)。しかし,時

間の関係上、「蘭語 + 日本語ローマ字表記の訳語」の部分しか写していないため、判読には困難な部分が残る。申請者はこの幻の写本が東洋文庫に 1934 年以来所蔵されていることを発見し、「ハーグ本」と比較した結果、フィッセルの序文(1829)を含め、各ページの行数と見出し語も全〈同一で、「カタカナ表記」を部分的にしか取り入れず、「ひらがな表記」を捨象し、時に「漢字表記」を記している。しかし、オランダ商館に備えるものであるから、「未熟な、初歩的な」という判断を再考する必要がある。(4) P. F. B. von. シーボルトが入手したものは、現在、大英図書館所蔵(「大英本」)となっているが、シーボルトが中国人助手の郭成章の力を借りて整理させたものと考えられる。3 段(「蘭語 + 日本語ローマ字表記の訳語 + カタカナ表記」)が保たれ、4 段目に中国語訳を付している。このことについて鈴木博(1975)は「中国語風に記すものがある」、杉本(1978)は「いわゆる唐話語もあるように思う」という認識に過ぎず、中国人による中国語訳文・訳語であることを解していない。つまり、シーボルトは「蘭・日・中」という三ヵ国語の対訳辞書の作成を企図していたのである。

(5) このように,先行研究は,海外に流布したローマ字本(「海外本」)を単に初稿本的なものととらえ, 日本に流布した完成本の漢字仮名交じり本(「国内本」)の参照資料としてきた。しかし,「国内本」に 対して「海外本」の独自性という根本的な位置づけを誤っているため,その発展と展開を看過している のである。

3.研究の方法

- (1) 研究初年度にあたる《令和2 年度》は,「ハーグ本」のカタカタ語の索引の作成を進める準備を行った。また,これらの調査と並行して,「ハーグ本」の性格を書誌や内容などの面から精密に把握することに努めた。次年度の《令和3年度》は,より立体的に「ハーグ本」の位置づけを確定してくことを目指した。さらに「東洋文庫本」や,松田清(1984)によって高知で発見されたドゥーフ直筆のローマ字本の初稿本(「高知本」)を交え,「海外本」としてのローマ字本の状況を整理することを試みた。次々年度の《令和4年度》は,「国内本」をも交え,日本語学習辞書,多言語対訳(対照)辞書としてのローマ字本の発展・展開・深化の過程を総合して研究論文に仕上げることに努めた。期間延長を行った《令和5年度》には,コロナ禍でかなわなかった個々の資料の現地調査を行うことができた。
- (2) 「東洋文庫本」はホフマンの日本語研究の直接資料で,ホフマン自身の序文の解読によるものと分析することができるため,「ハーグ本」にはない漢字表記の出自と,日本での利用状況の調査を行った。
- (3) メドハーストが『英和和英語彙』で「ハーグ本」をいかに利用したのか,両書の比較から従来英語の読みに従ったローマ字綴りという見解を見直すことができる。あわせて,「ハーグ本」から採用した語彙量や,シーボルト所蔵の『英和和英語彙』を入手したホフマンが「和英の部」を利用して「日蘭辞典」を作成する過程を明らかにすることを検討している。
- (4) 全8 冊で雑多なものを含む「大英本」は,完成度の高い第1 冊 (A-F の部),第5 冊 (L-R の部),第8 冊 (W-Z の部)のサンプル調査を行った。その中国語訳の部分に注目し,訳語

の正確さや蘭語の概念の中国語による表現など,19 世紀前期の「西洋の近代知」がいかに東洋へ流入したのか,継続して実態を把握する必要がある。

4.研究成果

- (1) 研究の出発点として,メドハーストの辞書編集にかかわる人物と書籍を明らかにした。「『英 和和英語彙《1830)の編集に用いられた近世日本の辞書類 メドハーストの書簡に基づいて 」 (陳力衛(2022)「成城大学経済研究」235)では,宣教師メドハーストがバタビヤでオランダ 商館長から借り写した日本語の辞書や書物を特定した。メドハーストが『英和和英語彙』(1830) の編纂に日本の書籍を利用したことはよく知られていたものの,いままで具体的に名前まで特 定できている書籍は少なかった。本稿は新たにメドハーストの書簡を利用して江戸時代に日本 で編集された辞書8点を特定することができた。そして,それらの書籍について現在の所蔵先お よび状況を追跡 ・確認した。本稿の一連の調査と研究によって , 『英和和英語彙』の性格を明 らかにし,その成立過程において前進することができた。続いて,「19世紀における『訓蒙図 彙』の海外流布と利用」(陳力衛(2022)「成城大学経済研究」236)では特定した辞書 8 点の うちの1点である『訓蒙図彙』がいかに活用されたのかといった点について検討を加えた。つま り、『英和和英語彙』の「英和の部」において、 『訓蒙図彙』を意義分類の手本として活用し ただけではなく,動植物に関する多くの語のソースとして扱ったことを明らかにした。さらに, 中国の広東に伝わった『訓蒙図彙』はメドハーストがシーボルトから受け取ったものであり、現 在はアメリカに所蔵されていることを確認し,報告した。以上のメドハーストおよび『英和和英 語彙』を対象とした調査・研究により,さらに「長崎ハルマ」のローマ字本の実態に迫ることが 可能となった。
- (2) そして一歩進んで「出島からバタビヤへの日本知の伝播 蘭和辞書をめぐるメドハーストとフィッセルとの交流 」(陳力衛(2023)「成城大学経済研究」239)は、『英和和英語彙』の編纂の最大の難関である日本語のローマ字表記に苦慮しているメドハーストが、1829 年いかにしてオランダ商館員として日本に滞在した J. F. van. O. フィッセルがオランダへ持ち帰る途中の蘭和辞書「長崎ハルマ」のローマ字本をバタビヤの地で書写したのかを明らかにした。ローマ字本の叡智は、本研究で判明したその他の日本語の書物とあわせて、メドハーストの辞書『英和和英語彙』にも引き継がれていることを確認した。またバタビヤを中継地点として中国との交流も行われていることを明らかにしている。
- (3)『ドゥーフ・ハルマ』のもう一つの流れ フィッセルのローマ字本の位置づけ 」(陳力衛(2023)「国語と国文学」100)は,系統的にこの研究の位置づけ,背景,問題点を整理したものである。とくにフィッセルの「ハーグ本」が,前後するローマ字で記された蘭和辞書の中で,いかなる位置にあるのかを実証的に明らかにしたものである。日本,オランダ,イギリス,中国といった国々との交流から,ローマ字で記された「長崎ハルマ」が諸言語の対訳辞書として展開していくことを検証したものでもある。

- (4) 本課題に直結した内容の実績などを次のように公刊した。『シリーズ<日本語の語彙>近代の語彙1 四民平等の時代 』(陳力衛編(2020)朝倉書店)を単独で編集し出版した。書名の通り,8巻からなる「シリーズ<日本語の語彙>」の第5巻で,「普通文の形成」「言文一致体の成立」「訳語の創出」「近代辞書と語彙」の四部を立てて,研究分担者の木村一氏をはじめこの分野で活躍する研究者15人の論考を編集したものである。また,「辞書における挿絵の展開 19世紀の英和辞書,国語辞書,和英辞書を資料として 」(木村一(2022)『近代語研究』23),「国語辞書の項目中の挿絵-明治期と現代における-」(木村一(2022)「文学・語学」234)の2編の論文は,近代日本語という観点から本研究を補完し,一次資料を最大限に活用して調査・考察を行ったものである。
- (5) 本研究の周辺論文として,中国語による「近代科学語彙的生成及中日間往來; 以接辞"-力""-性"為主」(陳力衛(2020)「漢日語対対比研究論叢」11)は蘭学語彙の日中交流,とくに物理学関係の語彙を中心とした内容のものである。英語による'A Study of the Linguistic and Conceptual Development of diguo zhuyi (Imperialism)'(Liwei Chen (2020) Cultura. International Journal of Philosophy of Culture and Axiology 17-2)は以前日本語で執筆した「帝国主義」の概念史を修正し,英語に訳したものである。編者の要請で「日中近代の翻訳語 西洋文明受容をめぐって 」(陳力衛(2020)金文京編『漢字を使った文化はどう広がっていたのか 東アジアの漢字漢文文化圏 (東アジア文化講座 2)』文学通信)という近代翻訳語の流れを分かりやすくまとめた内容の論文を執筆した。「英華字典 ・華英字典と日本語研究 データベースを生かして 」(陳力衛(2023)「日本語学」2023 夏)は,これまで見過ごされてきた使用方法や問題点を丹念に整理し,示唆したものである。
- (6) 『図説日本の辞書 100 冊』,沖森卓也編(木村一・木村義之・陳力衛・山本真吾執筆 (2023) 武蔵野書院)は,申請者と協力者がともに参加したグループ研究であり,唐話辞書,蘭和辞書, 英華字典,英和辞書,および諸種の辞書に関して,本研究の成果などを当該書籍に盛り込んだも のである。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計25件(うち査読付論文 5件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件)

[〔雑誌論文〕 計25件(うち査読付論文 5件/うち国際共著 0件/うちオーブンアクセス 4件)	
1 . 著者名 陳 力衛	4 . 巻 第13卷第2期
2. 論文標題 通過翻譯,接軌世界 中國第一本百科辭典的誕生	5.発行年 2023年
3.雑誌名 南國學術	6.最初と最後の頁 195-213
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1 . 著者名 陳 力衛	4. 巻 vol.42-2
2.論文標題 英華字典・華英字典と日本語研究 データベースを生かして	5 . 発行年 2023年
3.雑誌名 日本語学 2023年夏号	6.最初と最後の頁 86-98
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1 . 著者名 陳 力衛	4 . 巻 2023年第4期(総346期)
2.論文標題 从成語到"和制漢語"中国成語的一種知識僑易	5 . 発行年 2023年
3.雑誌名 社会科学論壇	6.最初と最後の頁 18-25
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1 . 著者名 陳 力衛	4 . 巻 第 1 輯
2. 論文標題 章太炎与日本漢学界的不解之緣	5.発行年 2023年
3.雑誌名 章太炎研究	6.最初と最後の頁 235-256
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	 査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著

. ***	
1 . 著者名	4 . 巻
陳 力衛	7
2.論文標題	5.発行年
客観性を求める表現について 日本語で論文を書く時の困惑	2023年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
さいたま言語研究	188-197
掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	_
カープンティビスにはなり、大はカープンティビスが、四衆	
1.著者名	4 . 巻
陳 力衛	100-1
2.論文標題	5 . 発行年
『ドゥーフ・ハルマ』のもう一つの流れ フィッセルのローマ字本の位置づけ	2023年
1 / / / / / / / / / / / / / / / / / /	2023+
2 484 6	6 841 8 % - 7
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
国語と国文学	49-66
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
し なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
	<u> </u>
1.著者名	4 . 巻
	_
陳 力衛	239
2.論文標題	5.発行年
│ 出島からバタビヤへの日本知の伝播 蘭和辞書をめぐるメドハーストとフィッセルとの交流	2022年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
J. Alica	
	109-139
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
 オープンアクセス	国際共著
	当你不有
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	<u>-</u>
1.著者名	4 . 巻
木村 一	23
	5.発行年
辞書における挿絵の展開 一九世紀の英和辞書,国語辞書,和英辞書を資料として	2022年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
近代語研究	267-293
「根載於文のDOL(ごごね川オゴジェクト禁門フト	本性の女無
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
なし	無
なし オープンアクセス	
なし	無

 著者名 木村 - 論文標題 国語辞書の項目中の挿絵 - 明治期と現代における - 3 . 雑誌名 文学・語学 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 陳 力衛 	4 . 巻 234 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 141-152 査読の有無 有 国際共著
2 . 論文標題 国語辞書の項目中の挿絵 - 明治期と現代における - 3 . 雑誌名 文学・語学 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 141-152 査読の有無 有
国語辞書の項目中の挿絵 - 明治期と現代における - 3 . 雑誌名 文学・語学 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	2022年 6.最初と最後の頁 141-152 査読の有無 有
国語辞書の項目中の挿絵 - 明治期と現代における - 3 . 雑誌名 文学・語学 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	2022年 6.最初と最後の頁 141-152 査読の有無 有
文学・語学 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	141-152 査読の有無 有
文学・語学 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	141-152 査読の有無 有
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	査読の有無 有
なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名	有
なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名	有
オープンアクセスとしている (また、その予定である) 1.著者名	国際共著
オープンアクセスとしている (また、その予定である) 1.著者名	-
	T
陳 力衛	4.巻
	236
2 . 論文標題	5 . 発行年
19世紀における『訓蒙図彙』の海外流布と利用	2022年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
成城大学経済研究	149-176
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名	4 . 巻
陳 力衛	235
2.論文標題	5.発行年
『英和和英語彙』(1830)の編集に用いられた近世日本の辞書類 メドハーストの書簡に基づいて	2022年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
成城大学経済研究	145-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名	4 . 巻
陳 力衛	192
2.論文標題	5.発行年
『学問のすすめ』の文体	2022年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
福澤手帖	9-12
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
なし オープンアクセス	無

	T
1 . 著者名	4 . 巻
木村 一	-
2. 於女福昭	F 交流左
2.論文標題	5.発行年
啓蒙書の外国語のカタカナ表記の扱い 『西国立志編』の割注を資料として	2022年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
中部日本・日本語学研究論集	273-291
中部口华、口华苗子听九珊朱	273-291
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	☆ 査読の有無
なし	—————————————————————————————————————
	/ ***
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名	4 . 巻
陳 力衛	7
2 . 論文標題	5 . 発行年
語詞概念研究中的古典追溯有何意? 以《四庫全書》電子版為例	2021年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
亜洲概念史研究	279-295
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
+	
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
4 # 7 /2	1, 44
1 . 著者名	4.巻
陳 力衛	268
2.論文標題	5.発行年
·····	1 = 1 = 1
近代訳語のいわゆる転用語について 「文学」と「教育」を例として	2021年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
中国語学	22-53
中国由于	22-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	 査読の有無
なし	有
	F
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
	· ·
1 . 著者名	4 . 巻
陳 力衛	57
2. 論文標題	5.発行年
	2021年
近代「~主義」的傳播與《清議報》	1
近代「~主義」的傳播與《清議報》	6.最初と最後の頁
近代「~主義」的傳播與《清議報》	6.最初と最後の頁 213-235
近代「~主義」的傳播與《清議報》 3.雑誌名	
近代「~主義」的傳播與《清議報》 3.雑誌名 清代文學與翻譯	213-235
近代「~主義」的傳播與《清議報》 3.雑誌名 清代文學與翻譯 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	
近代「~主義」的傳播與《清議報》 3.雑誌名 清代文學與翻譯	213-235
近代「~主義」的傳播與《清議報》 3.雑誌名 清代文學與翻譯 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	213-235 査読の有無 無
近代「~主義」的傳播與《清議報》 3.雑誌名 清代文學與翻譯 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	213-235 査読の有無

	4 344
1 . 著者名	4.巻 234
陳 力衛	234
3. ±Δ-2-14TR	F 364-7-
2.論文標題	5.発行年
『新関文件録』から見る19世紀後期の中国語の対訳 日本近代漢語との比較において	2021年
a that of	c =
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
成城大学経済研究	111-138
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	4 . 巻
木村 <i>一</i>	秋
2 . 論文標題	5 . 発行年
辞書の名前	2021年
HT ELY HON	20217
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
日本語学	42-51
口华茄子	42-51
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	
· · · · · · =· ·	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
	1 . w
1 . 著者名	4 . 巻
陳 力衛	231
2.論文標題	5.発行年
成城学校中国人留学生史へのアプローチ	2021年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
成城大学 経済研究	293 322
风物入于 栏角则元	200 022
以极入于 社房则元	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無無無
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	査読の有無無無
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無無無
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	査読の有無 無 国際共著
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	査読の有無 無 国際共著 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	査読の有無 無 国際共著
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 陳 力衛	査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 陳 力衛 2 . 論文標題	査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 2 5 . 発行年
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 陳 力衛	査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 陳 力衛 2 . 論文標題 日中近代の翻訳語 西洋文明受容をめぐって	査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 2 5 . 発行年 2021年
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 陳 力衛 2 . 論文標題 日中近代の翻訳語 西洋文明受容をめぐって 3 . 雑誌名	査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 2 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 2 5 . 発行年 2021年
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 陳 力衛 2 . 論文標題 日中近代の翻訳語 西洋文明受容をめぐって 3 . 雑誌名	査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 2 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 陳 力衛 2 . 論文標題 日中近代の翻訳語 西洋文明受容をめぐって 3 . 雑誌名 金文京編『漢字を使った文化はどう広がっていたのか 東アジアの漢字漢文文化圏』東アジア文化講座2	査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 2 5.発行年 2021年 6.最初と最後の頁 192 196
掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 陳 力衛 2 . 論文標題 日中近代の翻訳語 西洋文明受容をめぐって 3 . 雑誌名 金文京編『漢字を使った文化はどう広がっていたのか 東アジアの漢字漢文文化圏』東アジア文化講座2	査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 2 5.発行年 2021年 6.最初と最後の頁 192 196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 陳 力衛 2 . 論文標題 日中近代の翻訳語 西洋文明受容をめぐって 3 . 雑誌名 金文京編『漢字を使った文化はどう広がっていたのか 東アジアの漢字漢文文化圏』東アジア文化講座2	査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 2 5.発行年 2021年 6.最初と最後の頁 192 196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 陳 力衛 2 . 論文標題 日中近代の翻訳語 西洋文明受容をめぐって 3 . 雑誌名 金文京編『漢字を使った文化はどう広がっていたのか 東アジアの漢字漢文文化圏』東アジア文化講座2 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 国際共著 4.巻 2 5.発行年 2021年 6.最初と最後の頁 192 196 査読の有無 無
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 陳 力衛 2 . 論文標題 日中近代の翻訳語 西洋文明受容をめぐって 3 . 雑誌名 金文京編『漢字を使った文化はどう広がっていたのか 東アジアの漢字漢文文化圏』東アジア文化講座2 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 2 5.発行年 2021年 6.最初と最後の頁 192 196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 陳 力衛 2 . 論文標題 日中近代の翻訳語 西洋文明受容をめぐって 3 . 雑誌名 金文京編『漢字を使った文化はどう広がっていたのか 東アジアの漢字漢文文化圏』東アジア文化講座2 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 国際共著 4.巻 2 5.発行年 2021年 6.最初と最後の頁 192 196 査読の有無 無

1 - 老者名		. "
2 - 論文標題 常用語の分水第 "漢英対照いるは辞典。の同一見出し内の複数漢字表記	1 . 著者名	4 . 巻
# 用語の分水線	木村 一	22
# 用語の分水線		
# 用語の分水線	2 論文種類	5 発行在
3. 雑誌名 * 近代諸研究。 5. 最初と最後の頁 23-46 #園職論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし 直読の有無 無		
接載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	常用譜の方が領 ・ 漢央対照いるは辞典』の同一見面し内の複数漢字衣記	2021年
#超談政文の201 (デジタルオプジェクト識別子)		
掲載論文のDDI(デジタルオブジェクト識別子) なし	3.雑誌名	6.最初と最後の頁
掲載論文の201 (デジタルオブジェクト識別子) なし	『近代語研究』	23-46
## オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	ZET VIII WI 7 LB	20 40
## オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難		
## オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難		
1 . 著書名 2 . 論文標題	掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
1 . 著書名 2 . 論文標題	なし、	=
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 . 著書名 陳 力衛 4 . 巻 11 2 . 論文標題 近代科学語彙的生成及中日間往来:以接辞"-力""-性"為主 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 漢日語対対比研究論叢 6 . 最初と最後の頁 76 90 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし 直読の有無 無 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 . 著書名 陳 力衛 4 . 巻 17(2) 2 . 論文標題 A Study of the Linguistic and Conceptual Development of diguo zhuyi (Imperialism) 2020年 3 . 雑誌名 Cultura. International Journal of Philosophy of Culture and Axiology 6 . 最初と最後の頁 67 88 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 面際共著 - 1 オープンアクセスとしている(また、その予定である) 4 . 巻 230 1 . 著書名 陳 力衛 (常校)、概念の成立と展開 5 . 発行年 2020年 2 . 論文課題 (常校)、概念の成立と展開 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁		<i></i>
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 . 著書名 陳 力衛 4 . 巻 11 2 . 論文標題 近代科学語彙的生成及中日間往来:以接辞"-力""-性"為主 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 漢日語対対比研究論叢 6 . 最初と最後の頁 76 90 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし 直読の有無 無 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 . 著書名 陳 力衛 4 . 巻 17(2) 2 . 論文標題 A Study of the Linguistic and Conceptual Development of diguo zhuyi (Imperialism) 2020年 3 . 雑誌名 Cultura. International Journal of Philosophy of Culture and Axiology 6 . 最初と最後の頁 67 88 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 面際共著 - 1 オープンアクセスとしている(また、その予定である) 4 . 巻 230 1 . 著書名 陳 力衛 (常校)、概念の成立と展開 5 . 発行年 2020年 2 . 論文課題 (常校)、概念の成立と展開 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁	ナープンフクセフ	
1. 著書名 陳 力衛 4 . 巻 11 2. 論文標題 近代科学語彙的生成及中日間往來: 以接辞"-力""-性"為主 5 . 発行年 2020年 3. 雑誌名 漢日語対対比研究論叢 6 . 最初と最後の頁 76 90 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 重読の有無 無 オープンアクセス 度		
陳 力衡 11 2 . 論文標題 近代科学語彙的生成及中日間往来; 以接辞"-力""-性"為主 5 . 発行年	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
陳 力衡 11 2 . 論文標題 近代科学語彙的生成及中日間往来; 以接辞"-力""-性"為主 5 . 発行年		
陳 力衛 11 2 . 論文標題 近代科学語彙的生成及中日間往来; 以接辞"-力""-性"為主 5 . 発行年	1	1
2 . 論文標題		_
近代科学語彙的生成及中日間往来; 以接辞"-力""-性"為主 2020年 3.雑誌名 漢日語対対比研究論叢 6.最初と最後の頁 76 90 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし 重際共著 オープンアクセス イープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1. 養者名 陳 力衛 2.論文標題 A Study of the Linguistic and Conceptual Development of diguo zhuyi (Imperialism) 5.発行年 2020年 3.雑誌名 Cultura. International Journal of Philosophy of Culture and Axiology 6.最初と最後の頁 67 88 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし なし 重読の有無 無 オープンアクセス オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 養者名 陳 力衛 2.論文標題 「農奴」概念の成立と展開 5.発行年 2020年 3.雑誌名 6.最初と最後の頁	课 刀衛	11
近代科学語彙的生成及中日間往来; 以接辞"-力""-性"為主 2020年 3.雑誌名 漢日語対対比研究論叢 6.最初と最後の頁 76 90 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし 重際共著 オープンアクセス イープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1. 養者名 陳 力衛 2.論文標題 A Study of the Linguistic and Conceptual Development of diguo zhuyi (Imperialism) 5.発行年 2020年 3.雑誌名 Cultura. International Journal of Philosophy of Culture and Axiology 6.最初と最後の頁 67 88 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし なし 重読の有無 無 オープンアクセス オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 養者名 陳 力衛 2.論文標題 「農奴」概念の成立と展開 5.発行年 2020年 3.雑誌名 6.最初と最後の頁		
近代科学語彙的生成及中日間往來; 以接辞"-力""-性"為主 2020年 3. 雑誌名 漢日語対対比研究論叢 6.最初と最後の頁 76 90 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無 オープンアクセス イープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.養育名 陳 力衛 2. 論文標題 A Study of the Linguistic and Conceptual Development of diguo zhuyi (Imperialism) 5.発行年 2020年 3. 雑誌名 Cultura. International Journal of Philosophy of Culture and Axiology 6.最初と最後の頁 67 88 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.業者名 陳 力衛 2. 論文標題 「農奴」概念の成立と展開 5.発行年 2020年 3. 雑誌名 5.発行年 2020年 3. 雑誌名 6.最初と最後の頁	2.論文標題	5 . 発行年
3 . 雑誌名 漢日語対対比研究論叢 6 . 最初と最後の頁 76 90		
漢日語対対比研究論義 76 90	四10付于由果的主风及中口间往不,以按研 7月 7往 总主	2020+
漢日語対対比研究論叢 76 90		
漢日語対対比研究論叢 76 90	3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 . 著者名 陳 力衛 名 Study of the Linguistic and Conceptual Development of diguo zhuyi (Imperialism) 3 . 雑誌名 Cultura. International Journal of Philosophy of Culture and Axiology		
### オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 「国際共著」 - 「「悪者名」		10 00
### オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 「国際共著」 - 「「悪者名」		
### オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 「国際共著」 - 「「悪者名」		
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 . 著者名 陳 力衛 4 . 巻 17(2) 2 . 論文標題 A Study of the Linguistic and Conceptual Development of diguo zhuyi (Imperialism) 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 Cultura. International Journal of Philosophy of Culture and Axiology 67 88	掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 . 著者名 陳 力衛 4 . 巻 17(2) 2 . 論文標題 A Study of the Linguistic and Conceptual Development of diguo zhuyi (Imperialism) 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 Cultura. International Journal of Philosophy of Culture and Axiology 67 88	な ,	==
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 . 著者名 陳 力衛 4 . 巻 17(2) 2 . 論文標題 A Study of the Linguistic and Conceptual Development of diguo zhuyi (Imperialism) 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 Cultura. International Journal of Philosophy of Culture and Axiology 6 . 最初と最後の頁 67 88 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無 無 オープンアクセス としている(また、その予定である) 国際共著 - 1 . 著者名 陳 力衛 4 . 巻 230 2 . 論文標題 「農奴」概念の成立と展開 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁		, m
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 . 著者名 陳 力衛 4 . 巻 17(2) 2 . 論文標題 A Study of the Linguistic and Conceptual Development of diguo zhuyi (Imperialism) 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 Cultura. International Journal of Philosophy of Culture and Axiology 6 . 最初と最後の頁 67 88 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無 無 オープンアクセス としている(また、その予定である) 国際共著 - 1 . 著者名 陳 力衛 4 . 巻 230 2 . 論文標題 「農奴」概念の成立と展開 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁	+	定 欧
1 . 著者名 陳 力衛 4 . 巻 17(2) 2 . 論文標題 A Study of the Linguistic and Conceptual Development of diguo zhuyi (Imperialism) 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 Cultura. International Journal of Philosophy of Culture and Axiology 6 . 最初と最後の頁 67 88 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著		国除 共 者
陳 力衛 17(2) 2 . 論文標題 A Study of the Linguistic and Conceptual Development of diguo zhuyi (Imperialism) 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 Cultura. International Journal of Philosophy of Culture and Axiology 6 . 最初と最後の頁 67 88 掲載論文のD01(デジタルオプジェクト識別子) なし 無 オープンアクセス また、その予定である) 国際共著 また。 4 . 巻 230 1 . 著者名 陳 力衛 に農奴」概念の成立と展開 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
陳 力衡 17(2) 2 . 論文標題 A Study of the Linguistic and Conceptual Development of diguo zhuyi (Imperialism) 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 Cultura. International Journal of Philosophy of Culture and Axiology 67 88 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 査読の有無 無		
陳 力衡 17(2) 2 . 論文標題 A Study of the Linguistic and Conceptual Development of diguo zhuyi (Imperialism) 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 Cultura. International Journal of Philosophy of Culture and Axiology 67 88 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 査読の有無 無	1 苹老夕	Λ 发
2.論文標題 A Study of the Linguistic and Conceptual Development of diguo zhuyi (Imperialism)5.発行年 2020年3.雑誌名 Cultura. International Journal of Philosophy of Culture and Axiology6.最初と最後の頁 67 88掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし重読の有無 無オープンアクセス国際共著 -1.著者名 陳 力衛4.巻 2302.論文標題 「農奴」概念の成立と展開5.発行年 2020年3.雑誌名6.最初と最後の頁		_
A Study of the Linguistic and Conceptual Development of diguo zhuyi (Imperialism) 2020年 3 . 雑誌名 Cultura. International Journal of Philosophy of Culture and Axiology 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス 国際共著 オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 陳 力衛 2 . 論文標題 「農奴」概念の成立と展開 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁 6 . 最初と最後の頁	课 刀衛	17(2)
A Study of the Linguistic and Conceptual Development of diguo zhuyi (Imperialism) 2020年 3 . 雑誌名 Cultura. International Journal of Philosophy of Culture and Axiology 6 . 最初と最後の頁 67 88 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス 国際共著 オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 陳 力衛 2 . 論文標題 「農奴」概念の成立と展開 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁 6 . 最初と最後の頁		
A Study of the Linguistic and Conceptual Development of diguo zhuyi (Imperialism) 2020年 3.雑誌名 Cultura. International Journal of Philosophy of Culture and Axiology 4.最初と最後の頁 67 88 清載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス 国際共著 オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 陳 力衛 2.論文標題 「農奴」概念の成立と展開 3.雑誌名 6.最初と最後の頁 6.最初と最後の頁	2 . 論文標題	5.発行年
3 . 雑誌名 Cultura. International Journal of Philosophy of Culture and Axiology 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス 国際共著 オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 陳 力衛 2 . 論文標題 「農奴」概念の成立と展開 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁	A Study of the Linguistic and Concentual Development of diguo zbuyi (Imperialism)	
Cultura. International Journal of Philosophy of Culture and Axiology 67 88 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無無無 オープンアクセス 国際共著 - 1. 著者名陳力衛 4 . 巻 230 2. 論文標題「農奴」概念の成立と展開 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁	A study of the Emgarstre and conceptual beveropment of argue zhayr (imperialism)	2020—
Cultura. International Journal of Philosophy of Culture and Axiology 67 88 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無無無 オープンアクセス 国際共著 - 1. 著者名陳力衛 4 . 巻 230 2. 論文標題「農奴」概念の成立と展開 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁	- 101	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	3.雑誌名	6.最初と最後の負
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	Cultura. International Journal of Philosophy of Culture and Axiology	67 88
なし無オープンアクセス 		
なし無オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)国際共著 -1 . 著者名 陳 力衛4 . 巻 2302 . 論文標題 「農奴」概念の成立と展開5 . 発行年 2020年3 . 雑誌名6 . 最初と最後の頁		
なし無オープンアクセス 	相事やかのDOL (プンカリナブン	* * * * * * * * * * * * * * * * * * *
オープンアクセス国際共著1 . 著者名 陳 力衛4 . 巻 2302 . 論文標題 「農奴」概念の成立と展開5 . 発行年 2020年3 . 雑誌名6 . 最初と最後の頁		
オープンアクセス国際共著1 . 著者名 陳 力衛4 . 巻 2302 . 論文標題 「農奴」概念の成立と展開5 . 発行年 2020年3 . 雑誌名6 . 最初と最後の頁	なし	無
オープンアクセスとしている(また、その予定である) - 1 . 著者名 陳 力衛 4 . 巻 230 2 . 論文標題 「農奴」概念の成立と展開 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁		
オープンアクセスとしている(また、その予定である) - 1 . 著者名 陳 力衛 4 . 巻 230 2 . 論文標題 「農奴」概念の成立と展開 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁	オーゴンマクセフ	国際仕事
1 . 著者名 陳 力衛 4 . 巻 230 2 . 論文標題 「農奴」概念の成立と展開 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁		国际バ目
陳 力衛2302 . 論文標題 「農奴」概念の成立と展開5 . 発行年 2020年3 . 雑誌名6 . 最初と最後の頁	オーノンアクセスとしている(また、その予定である)	-
陳 力衛2302 . 論文標題 「農奴」概念の成立と展開5 . 発行年 2020年3 . 雑誌名6 . 最初と最後の頁		
陳 力衛2302 . 論文標題 「農奴」概念の成立と展開5 . 発行年 2020年3 . 雑誌名6 . 最初と最後の頁	1 著名名	4
2.論文標題 「農奴」概念の成立と展開5.発行年 2020年3.雑誌名6.最初と最後の頁		
「農奴」概念の成立と展開 2020年 3.雑誌名 6.最初と最後の頁	ᄷᄼᄀᄩᆡ	230
「農奴」概念の成立と展開 2020年 3.雑誌名 6.最初と最後の頁		
「農奴」概念の成立と展開 2020年 3.雑誌名 6.最初と最後の頁	2 . 論文標題	5.発行年
3.雑誌名 6.最初と最後の頁		
	12 A 3 18/10 4 A 12 A	2020 T
	0 1821-01	c = = = = = = = = = = = = = = = = = = =
成城大学 経済研究 159 186		6.最初と最後の負
	成城大学 経済研究	159 186
\mathbf{I}		
相野公立のDOL / デジカリナイジニカー 禁助フン	担割なみの001/デックリナイン。カーかのフン	本はの左仰
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無		
なし 無	なし	無
オープンアクセス 国際共著	オーゴンアクセフ	国際共著
		当 你不有
オープンアクセスとしている(また、その予定である) -	オーノンアクセスとしている(また、その予定である)	-

1 . 著者名	4.巻
木村 一	5
2.論文標題	5 . 発行年
中村正直の語彙	2020年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
『シリーズ日本語の語彙 第5巻 近代の語彙 (1) 一四民平等の時代一』	130-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著

[学会発表]	計9件((うち招待講演	1件 / うち国際学会	5件)

1.発表者名

陳 力衛

2 . 発表標題

西學東漸的別一條管道 近代日本的對華翻譯與出版

3 . 学会等名

「洋字與華文:近代香港與上海的西書中譯和出版」國際學術研討會(国際学会)

4 . 発表年 2023年

1.発表者名

陳 力衛

2 . 発表標題

英華字典數據庫與概念史研究

3 . 学会等名

「近代中日思想交流的脈絡連鎖」國際學術研討會(国際学会)

4 . 発表年

2023年

1.発表者名 陳 力衛

2.発表標題

文化的中轉站 麥都思在巴達維亞的翻譯出版

3 . 学会等名

第四屆中國翻譯史國際研討會(国際学会)

4 . 発表年

2023年

1. 発表者名
陳力衛
2.発表標題
イギリス人宣教師メドハーストの日本語学習と辞書記述
3.学会等名
関西大学言語交渉研究班第3回研究例会(招待講演)
4 . 発表年 2023年
20234
1.発表者名
木村 一
2.発表標題
とこれは病医 『自由之理』における外国語のカタカナ表記の記載方法 外来語への道程
3 . 子云寺石 鄭州大学漢字文明研究中心/文学院による「漢字文化圏的近代新詞語 材料 , 概念与翻訳 国際学術研討会 」(国際学会)
契州八子庚于文明明九中心/文子院による 庚于文10回时近10利时的 初付,佩心与豳帆 国际子刊期的云 (国际子云)
4 . 発表年
2024年
1.発表者名
木村一
2.発表標題
『雅俗幼学新書』と『和英語林集成』
3.学会等名
文献日本語研究会
4 . 発表年 2022年
ZVZC-T
1.発表者名
木村一
ここ光代表題 辞書における挿絵の展開
2
3 . 学会等名 近代語学会
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
4 . 発表年
2022年

1.発表者名 陳 力衛	
2.発表標題 出島からバタビヤへの日本知の伝播 メドハーストの役割を中心に	
3.学会等名 近代東アジア文化史の再構築 19世紀の百年間を中心に (日文研国際共同研究会)	
4 . 発表年 2021年	
1.発表者名 木村一	
2.発表標題 啓蒙書の外国語の記述と常用性 『西国立志編』を資料として	
3.学会等名 第19回 漢字文化圏近代語研究会学術大会 「東アジア言語における漢字語彙の過去現在と未来」(国際学	· 会)
4 . 発表年 2021年	
〔図書〕 計3件	
1.著者名 沖森卓也,木村一,木村義之,陳力衛,山本真吾	4 . 発行年 2023年
2. 出版社 武蔵野書院	5 . 総ページ数 301
3.書名 図説 日本の辞書 100冊	
1.著者名 陳力衛主編	4 . 発行年 2022年
2.出版社 上海古籍出版社	5.総ページ数 16929
3.書名 近代日本漢文文獻叢刊 第一輯(28冊)	

1 . 著者名 陳力衛 編	4 . 発行年 2020年
2.出版社 朝倉書店	5.総ページ数 193
3.書名 シリーズ日本語の語彙 第5巻 近代の語彙(1)一四民平等の時代一	

〔産業財産権〕

〔その他〕

_

6.研究組織

	・以けては一				
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考		
	木村 一	東洋大学・文学部・教授			
研究分担者	(Kimura Hajime)				
	(90318303)	(32663)			

7.科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------